

## 新たな都市活力推進特別委員会行政視察概要

- 1 視察月日 令和5年7月18日（火）～7月19日（水）
  
- 2 視察先及び視察事項
  - (1) 沖縄県宮古島市  
スポーツイベント開催による観光振興と地域活性化等の取組について
  - (2) 宮古島商工会議所（沖縄県宮古島市）  
宮古島商工会議所における企業支援等に関する取組について
  
- 3 視察委員  
委員 中山大輔  
委員 山浦英太

## 視察概要

### 1 視察先

沖縄県宮古島市

### 2 視察月日

7月18日（火）

### 3 対応者

スポーツ振興課長補佐兼スポーツ振興係長（受け入れ挨拶・説明）

スポーツ振興課長補佐兼企画推進係長（説明）

### 4 視察内容

#### （1）スポーツイベント開催による観光振興と地域活性化等の取組について

##### ア 宮古島市が抱える社会的課題

宮古島は沖縄本島から南西に約300キロメートル、東京からは約2000キロメートルに位置し、大小6つの島（宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島）で構成されている。その中で、宮古島市の総面積は204平方キロメートル、また人口は現在約5万5000人であり、居住区の大部分は平良地区に集中している。2020年時点で人口はまだ増加傾向を示しているが、2060年には約3万5000人にまで減少するという推計が出ている。

日本全体で深刻化している少子高齢化は宮古島市でも深刻な課題となっており、今後島内で急速に少子高齢化が進むことで社会経済構造の大きな変化が発生し、将来の市民生活や産業活動に深刻な影響を及ぼすものと考えられている。

##### イ 多種多様なスポーツイベントの開催及び誘致によるにぎわい創出

元来、宮古島は観光地及び旅行先として人気が高く、国内外からの観光客数は通年で一定数の集客を誇っているが、1985年の第1回宮古島トライアスロン大会の開催から徐々にスポーツ関連イベントを島内で開催及び誘致する道筋が出来上がった。

1992年には宮古島で初の日本プロ野球オープン戦である、中日ドラゴンズ対大洋ホエールズ戦が実現した。1993年にオリックス・ブルーウェーブが宮古島初の日本プロ野球キャンプを実施してから現在まで、プロ野球の新春沖縄キャンプは毎年の恒例行事となり、直

近の2023年は9チームが沖縄本島で春季キャンプを行っているが、宮古島は今でもプロからアマチュアまで、幅広い年齢層や各種スポーツ団体が宿泊型のキャンプ地として継続的に利用している。

また、近年人気が高く、国内の競技者が増えているマラソン及びトライアスロンは競技者、大会関係者、家族や友人等の応援者を含め一度の大会に集まる人数が他のスポーツ大会と比較してかなり多いため、集客ができる。運動強度も高く大会自体も終日をかけて実施される影響により、参加者等のうち、前後に宿泊をする割合が非常に高く、競技当日以外でも浜辺や繁華街に自然とにぎわいが生まれる特性がある。

現在、宮古島市では宮古島100キロワイドーマラソン大会、宮古島市17ENDハーフマラソン in 伊良部島大会及びエコアイランド宮古島マラソン等、多種多様なマラソン大会を各シーズンで開催している。年間を通して暖かく過ごしやすい気候を生かした通年のイベントとして、島全体に人の流動性を生み出し、にぎわいを創出している。

特に全日本トライアスロン宮古島大会は2023年で第37回目の開催を迎え、国内で見ても長い歴史を持つ伝統的なスポーツイベントとして人気を博している。主催である宮古島市及び琉球新報社においても既存の参加者だけではなく、新規の参加者や応援者をより増やしていくために毎年様々な媒体を通じた大会インフォメーションや、ユーザーインターフェースを意識して作られた見やすい・探しやすいホームページを公開し、より多くの人々が継続的に大会に足を運んでもらえるよう、取組を進めている。

宮古島観光協会や各種情報サイトが相互に連携し、トライアスロンの情報をインターネットやSNSで検索すると関連情報として観光地、グルメ及び宿泊先の情報もヒットするように仕掛けが施されているため、大会出場を検討中の場合でもノンストレスで宿泊行程の情報を網羅することができる。

各種スポーツイベントの開催は地域住民にとって経済的効果はもとより交流の機会も増えるため、人と人の新たなつながりが生まれ、にぎわい創出とともに地域活性化を図ることができ、住民生活にも良い影響を与えている。

#### ウ 質疑概要

Q 各種スポーツ大会へのボランティアはどのように募集をしてい

るのか。

A 大会の開催に合わせて、早期からホームページ等を活用した求人や広告を掲載している。

Q ボランティアを活用することのメリットはどのようなものが考えられるのか。

A 多くのボランティアが参加することで、ボランティア参加者は協働に伴う一体感から生まれる新たな人間関係や事業成功の経験を積むことができ、イベントに社会的意義があるというポジティブなイメージにつながる。また、大会参加者及び大会関係者と同じくボランティアが多く集まることで、地域活性化や島内全体の経済効果にも繋がっている。

Q トライアスロン大会の募集要項を教えてください。

A 基本条件は満19歳以上65歳までの健康な男女で、スイム、バイク及びランの競技に参加経験があり、かつこれらを同時に行うトライアスロン大会に参加した実績のある方が対象となる。ただし、募集人数が計画数を上回った場合は、抽選を行い当選者のみ大会に参加することができる。また、参加費は一律6万円と定めている。

## (2) 委員所見

スポーツイベントは社会的効果や経済的効果などのメリットが多くあると思われる。大会開催により地域外からの誘客を見込むことができ、そこから観光及び関連産業の活性化が進み、宮古島の知名度の向上につながると感じた。また住民が地域に誇りを持ち、一体感のあるコミュニティ意識を醸成することが期待できる。

本市は日本トライアスロン連合と連携して、横浜開港150周年記念を機に2009年からトライアスロンの大会を開催し、2024年で14回目の開催実績を積んでいる。本市は、スポーツ・トライアスロンが持つ力で横浜の地域課題の解決や地域経済の活性化の実現につなげているが、この先も長く人気を維持するイベントへと昇華させるためには、データや数値を含めた実績をもとに着実な振り返りを行い、今後につながる大会になるよう市民とともに一体感を持てる取組及び環境づくりが改めて必要だと感じた。

また今後の課題として、オープンウォータースイムや、自転車で公道をプロのレースのように走れるスペース、トランジションの練習環境を整えていく必要がある。本市でもより一層競技人口を増やすため

に、企業や大学との公民連携を強化していき、他の都市に負けないトップクラスのスポーツイベントを目指してほしい。



(会議室にて説明聴取及び質疑)

## 視察概要

### 1 視察先

宮古島商工会議所（沖縄県宮古島市）

### 2 視察月日

7月19日（水）

### 3 対応者

総務課長（受け入れ挨拶・説明）

中小企業相談部経営指導員（説明）

### 4 視察内容

#### （1）宮古島商工会議所における企業支援等に関する取組について

##### ア 宮古島の現状と経営資源等に係る課題

宮古島は全国でも有数の観光スポットとして広く認知されている。宿泊業においてはリーズナブルな価格帯のペンション・ビジネスホテルから高級ホテルまで幅広く展開され、島内西側の市街地及び南東側のリゾート地を中心に宿泊施設が点在し、様々な年齢層や所得層、または国内外観光客等をすべて取り込める環境が整っている。また、クルーズ船の寄港の大幅な増加や下地島空港における国際線の就航等により、今後も外国人旅行者は増加することが見込まれている。

一方、島内における人口減少及び少子高齢化の進行は、労働力人口の減少による経済規模の縮小、年金・医療・介護等の社会保障費の増加及び地域コミュニティの存続の危機など、今後の社会・経済に多大な影響を与えることが懸念されている。

このような状況の中、宮古島全体を持続可能かつさらに魅力あるまちにするためには、これからも伸び続ける観光業だけではなく、市内企業及び経済も同時に活性化させていく必要がある。そのためには、人や物の新たな交流を生み出す必要があり、社会情勢や市民ニーズの変化、または時代の潮流を見据えた取組が重要になる。

##### イ ビジネスマッチングによる新たな交流と経済的効果

宮古島商工会議所では、地域の経済循環及び地産地消促進のため、宮古島圏域内の生産者と幅広いジャンルのバイヤーを一堂に集め、新たなビジネスを生み出したい企業同士をつなぐビジネスマッチン

グサービスであるぷからす交流商談会（以下「商談会」という。）を開催している。ぷからすとは宮古島の方言で嬉しくてわくわくするという意味から、売り手と買い手がともに参加して良かったと思えるように商談会の名称に採用されている。商談会では企業と企業の交流を生むビジネスミーティングを実施しており、通常の営業では出会えない企業同士が交流できる。商工会議所が中心となり、自治体等も巻き込みながら新たなビジネスを生み出す環境を積極的に提供している。

島内で事業を続けてきた生産者等売り手側には、外に向けて自らの生産物や商品を発信する経験ができ、ノウハウが少ない生産者もいるため、商談会の開催前に売り手を対象にしたスキルアップセミナー及び相談会を設置し、商談会当日の交流の質を出来る限り向上する取組も進めている。

商談会の一番の目的は宮古島の人と人のつながりであり、目線の近い商談会の中で新たな経済効果を生むことであるが、バイヤー側には国内外問わない島外バイヤー枠も設けており、参加者の内訳によっては島外への新たな販路開拓にもつながる仕組みも用意している。

島内の魅力ある生産物や商品が、埋もれることなく島内外に認知され、潜在的なニーズを持つ消費者の元にまでスムーズに届くよう、今後も改善を重ねながら積極的に開催を続けている。

#### ウ 質疑概要

Q ビジネスマッチングの最大のメリットは何か。

A 企業と企業が出会える場を提供することで、地域企業同士、お互いが抱える問題を解決し合い、Win-Winの関係を構築できることである。

Q 他にはどのような種類のマッチングを行っているのか。

A 企業同士の取引だけではなく、企業と個人の取引も多く行われている。

Q 個人事業主でも参加できるイベントはあるのか。

A 会社の規模、業種、業態及び業歴は問わない。多種多様なイベントを用意することで、どのようなカテゴリーの企業や人材でも参加できるように工夫をしている。

#### (2) 委員所見

ビジネスマッチングサービスにより企業活動を活性化させることは、

地方創生にもつながる大変重要な取組である。従来のネットワークを超えた新たなつながりを生み出すことで、企業及び人的交流の機会創出が進み、都市部のノウハウや情報を各地域に浸透させることができる。また、新規事業や販路の拡大等を進めるにあたり、自社では実現が難しいことでもビジネスマッチングを利用することで、ノウハウやサービスを提供したい企業とそのリソースを利用したい企業が効率的に出会うことができる。

自治体だけではなく、商工会議所や地元企業が垣根なく柔軟に協力できる環境づくりの手法と、限られたリソースの中でも工夫次第で新たな価値や利益を生み出せることを、この視察で学ぶことができた。

都市の大きさに関係なく、本市でもさらなる地域活性化を生み出すアイデアや工夫はあるということを、改めて認識する貴重な機会となった。